

「彩の国の道徳『未来に生きる』」  
埼玉県道徳教育教材集-現代的な課題をもとに-

## 実践事例【2】



埼玉県教育委員会

## 実践事例一覧

事例5 教材名：「大すきなタブレットタイム」（小学校1年生）

主題名：よりよい自分へ

内容項目：A 節度、節制

実践事例のポイント：自己を見つめ、生き方につながる授業

～ウェルビーイングの視点を取り入れて～

事例6 教材名：「離れていても」（小学校5年生）

主題名：互いに信頼し合う友達

内容項目：B 友情、信頼

実践事例のポイント：考え、議論する意欲を引き出す補助発問の工夫を取り入れた授業

事例7 教材名：「男らしさ女らしさ、自分らしさ」（中学校1年生）

主題名：充実した生き方を求めて

内容項目：A 向上心、個性の伸長

実践事例のポイント：自己の生き方・考え方について、多面的・多角的に考える授業

事例8 教材名：「コロナ禍で気付いたこと」（中学校2年生）

主題名：集団生活を充実させるには

内容項目：C よりよい学校生活、集団生活の充実

実践事例のポイント：実体験を聞き、よりよい生き方について考える道徳授業

資料 よりよい授業づくりのために②

## 実践事例の活用について

本実践事例は、令和4年3月発行の埼玉県道徳教育教材集「彩の国の道徳『未来に生きる』」をより多くの先生方に活用してもらうため、教材を使って実際に授業を行い、どのように授業を展開していくのかを、学習指導案の形でまとめたものである。

令和6年3月に、小学校の教材2編、中学校の教材2編に係る実践事例4例と参考資料を作成、発行したものに続いて、今回、新たに小学校の教材2編、中学校の教材2編に係る実践事例4例と参考資料を作成した。

実践事例作成に当たっては、「彩の国の道徳『未来に生きる』」の作成の趣旨である、情報モラルをはじめとして、子供たちが直面する現代的な課題や社会的な問題を取り上げ、ねらいとする道徳的価値を子供たちが自分との関わりで深め、多面的・多角的に考えられる授業の事例を目指した。また、「道徳科をもっと楽しく行うために」として、道徳科の授業充実に係るさまざまな視点での参考資料を示している。

引き続き「彩の国の道徳『未来に生きる』」、本実践事例等を活用しながら、これから時代を生きる子供たちのために、道徳科の授業の工夫改善をお願いしたい。

## 事例5 小学校・低学年（1年生）

### 自己を見つめ、生き方につながる授業～ウェルビーイングの視点を取り入れて～

**1 主題名** よりよい自分へ **内容項目** A 節度、節制

**2 ねらい** 主人公の心の動きを考えることを通して、わがままをしない規則正しい生活が自分や周囲にとって大切であることに気付き、自分で考えて行動する心情を育てる。

**教材名** 大好きなタブレットタイム

（出典：「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」）

#### 3 主題設定の理由

##### (1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第1学年及び第2学年の内容項目「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をすること。」に関するものである。内容項目は、第3学年及び第4学年の「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をすること。」につながっていく。

この段階においては、身の回りを整えて規則正しい生活を送ることの必要性については理解できているが、実践することが難しい。自己中心的な思考が強く、自分の欲求や欲望のままに行動しようとする傾向がある。進んで自らの生活を整えるという意識は低く、家族や教師といった周囲の大人に指摘をされて改善しようとする姿が多く見られる。

指導にあたっては、自分の都合のよい方や苦労を避ける方へ流されてしまいがちな人間の弱さに寄り添いながら、よりよく生きるために自らの欲求や欲望を抑えることのよさや必要性を感じさせることが大切である。また、自らを節制することで、自分だけでなく身近な人や社会全体にも影響を与え、よりよい生き方やよりよい社会につながっていくことにも気付かせたい。主人公の行動や心情を考えることを通して、わがままをしないで生活することのよさについて深く考えさせたい。

##### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、素直な子が多く、学校生活アンケートからは楽しく前向きに学校生活を送っていることが見受けられる。しかし、活動や遊びに夢中になり次の活動へ遅れてしまうなど、切り替えが上手くできずに学校生活に支障をきたすことがある。周囲に声をかけられると気付くことができるが、自分から気付き律することができる児童は少ない。

道徳科の学習では、一人一人が自分の考えを持ち、授業に積極的に参加しようとする姿勢が見られる。主人公に自分の姿を重ね、自分の考えをのびのびと表現できているように感じられる。多くの児童が週に1時間の道徳科の学習を楽しみにしている。

4月の最初の授業で道徳開きを行った際は、「道徳科の授業は、何のために学習をするのか」ということを問いかけ、学級全体で考えた。児童からは、「心をつかって、幸せになるために」という考えが出た。「自分だけでなく家族や友達、地域の人、日本中、世界中の人々が幸せになるために学習することが大切」という児童の発言が出たので、毎時間の学習では、幸せのために自分はどのように心を働かせて、どのように生きていくのかを考えさせてきた。Aの【主として自分自身に関すること】の内容項目の学習においても必ず周囲の人や社会全体のことについて考えられるようなウェルビーイングの視点を取り入れた発問を行ってきた。ま

だ、幼児性が強く自分がることが最優先になる児童が多いが、道徳科の授業を要とする道徳教育や学校行事、学級活動等を通して、協調性や利他性が少しづつ育ってきているように感じられる。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、自分を律し時間を守ることで、気持ちよく生活することができるという価値が描かれている。一人一台端末という児童にとっては大変身近なものが題材になっているので、概ねの児童が主人公の気持ちに共感しやすいと考えられる。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合う。

#### ① タブレットに夢中になって取り組んでいる場面

自分の好きなことをしているときの気持ちよさや、なかなかやめることができない人間の本能や弱さについて共感させる。【人間理解】

#### ② タブレットに夢中になりすぎて、友達と約束していた遊びに間に合わなかった場合

友達との約束を守れなかったこと、友達を悲しませたこと、自分の弱さを実感したことなど後悔や反省のような多様な気持ちを想起させる。【他者理解】

#### ③ タブレットをすぐにやめて、友達と一緒に遊ぶことができ、すっきりしている場面

好きなことを我慢したけれど、友達と遊ぶことができたり約束を守ることができたりした自分に対して満足していることに気付かせ、規則正しい生活を自ら行うことのよさを感じさせる。【価値理解】

## 4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 5分	<p>1 普段の生活を想起し、問題意識をもつ。</p> <p>(1) 好きなことはありますか。</p> <p>(2) 好きなことをしているときはどんな気持ちになりますか。</p> <p>(3) 好きなことをしているときに「我慢しましょう」と言われたらどんな気持ちになりますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ゲーム。</li><li>・遊び。</li><li>・習いごと。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・嬉しい。</li><li>・いい気持ちになる。</li><li>・もっとやりたくなる。</li></ul> <p>すきなこと 😊 がまん 🤔 顔の表情を板書してわかりやすく</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・嫌な気持ち。</li><li>・我慢したくない。</li><li>・好きなことを続けたい。</li><li>・もっと自由にしたい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自らの生活を想起させて、自分事として考えやすくさせる。</li><li>・様々な制約がある中で生活していることに気付かせ、節制することの意義を考える土台を作る。</li><li>・普段、したくないことでもしていることに気付かせ、違和感を抱き、問題意識をもてるようになる。</li></ul>

### ◎問題意識をもたせるための導入の工夫

T : みんなの好きなことを教えてください。

C : サッカー、料理、テニス、遊ぶこと・・・

T : 好きなことをしているときはどんな気持ちになりますか。

C : 嬉しい、楽しい、いい気持ち、もっとやりたくなる

T : そうだよね。好きなことを「我慢しましょう」と言われたらどんな気持ちかな。

C : 嫌な気持ちになる。我慢はしたくない。でもしなきやいけないときもあるかも。

T : 先生やおうちの人によく「我慢しようね」とか「今はやらないよ」って言われると思うけれど、嫌なこと言っているね。なんでそんなこと言うのかな。我慢は必要かな。

C : 必要かもしれない。何でだろう。

T : 我慢すると何かいいことがあるのかな。今日はみんなで我慢するのはどうしてなのか考えよう。

普段の生活での家族や教師とのやりとりを想起させ、今までには気付かなかった違和感を抱かせ、問題意識をもたせる。本時の学習課題へつなげる。

我慢するのはどうしてかな。

本時の学習課題へつなげる

展開 37分 2 登場人物、設定を知る。

登場人物：そうた、先生、ともだち

条件・情況：大好きなタブレットに夢中になりすぎてしまい、約束に遅れてしまう。



今日は、そうたさんに  
なって聞いてね。

- ・事前に確認しておくことで、全員が教材文を理解し、話合いの土台に乗ることができるようにする。
- ・自分の考えをもちやすくするように、聞く視点を与える。

埼玉県教育委員会のHPから  
教材文の挿絵を提示した。

### ◎教材文の世界に没入し、話合いの土台をつくるための工夫

#### ① I C T機器を活用し、教材文の読み聞かせを行う

挿絵のみを大型モニターに映し出し、絵を動かしながら読み聞かせを行う。机の上には何も出でていないので、集中して聞くことができる。児童は聞きながら、たくさん呟いていた。



#### ② I C T端末を活用し、主人公と同じ状況を体験する

2分ほど自分の I C T端末を使って、好きなことを行う時間を作る。体験することで、主人公の気持ち（人間の弱さや人間らしさ）に共感することができる。【人間理解】

	<p>3 教材を読み、話し合う。</p> <p>(1)の発問の前に、好きなように自分のＩＣＴ端末を操作する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい。</li> <li>・嬉しい。</li> <li>・もう終わりなのか。</li> <li>・もう少しやりたかったな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公と同じ状況を体験させ、タブレットに夢中になっているときの気持ちを考えさせる。</li> </ul>
	<p>(1) タブレットタイムのとき、そなたはどんな気持ちですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嬉しい。</li> <li>・やっとこの時間がきた。</li> <li>・早く問題をやりたい。</li> <li>・もっとたくさんやりたい。</li> <li>・芽が大きくなるのが楽しみ。</li> <li>・この時間がずっと続いてほしい。</li> </ul>	<p>規律ある態度の育成</p> <p>【話を聞き、発表する】</p> <p>ペアや学級全体の話合いを通して、友達の発表をしつかり聞き、自分の考えをもち、伝えることができるようとする。</p>
	<p>(2) 友達との遊びにおくれてしまったとき、そなたはどんなことを考えていきましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しまった。</li> <li>・少しだら大丈夫だと思ったのに。</li> <li>・友達に悪いことをしてしまったな。</li> <li>・失敗したな。</li> <li>・もっと早くやめればよかった。</li> <li>・自分が悪いな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の行動や心情を考えさせることにより、自ら節制することの難しさを感じさせる。</li> <li>・補助発問を行うことにより、多面的・多角的な感じ方ができるようにする。</li> </ul> <p>☆主人公の姿に自分を重ね、友達の意見を受容しながら話し合っている。</p>

#### ◎多面的・多角的な感じ方ができるようにするための工夫

T：友達との遊びに遅れたとき、そなたはどんな気持ちでしたか。

C：ブランコができなくて悲しかった。

C：友達と遊べなくて後悔している。

C：もっと早くやめればよかったと思っている。

T：ブランコで遊びたかったら放課後に来て遊べばいいんじゃないの。

C：それではだめ。友達も楽しくなかったと思う。

C：友達にも悲しい思いをさせてしまった。

ブランコに乗れなかつたという後悔だけではなく、友達との約束を守ることができず、自分の行為が友達にも影響を与えていていることに気付かせる。

	<p>(3) 我慢したのにすっきりしたのはなぜですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランコで遊べたから。</li> <li>・友達との約束を守れたから。</li> <li>・時間を守ることができたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の心情を考えさせることにより、節制することのよさを感じさせる。</li> </ul>
--	---------------------------------	---	---

### ◎ウェルビーイングの視点を取り入れる工夫

T：好きなことを我慢したのになぜすっきりしたのでしょうか。

C：友達と遊べたから。

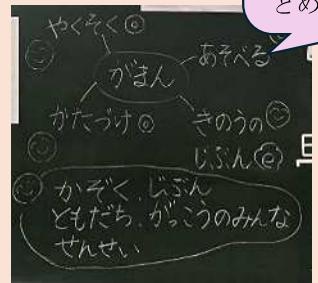
C：約束をまもることができたから。

C：タブレットを早く片付けることができたから。

C：昨日の自分よりもよくなつたから。

T：嬉しくなつたり気持ちよくなつたりするのは自分だけなのかな。

C：家族。友達。学校のみんな。先生。



自分だけが幸せや生きがいを感じるのではなく、周囲の人や社会全体の幸せも考えられるようにする。自分の行動が周囲にも影響を与えることに気付かせる。

4 自己を見つめる。  
今日の学習で見つけた  
「我慢することのよ  
さ」を書きましょう。  
(ワークシートに記述)

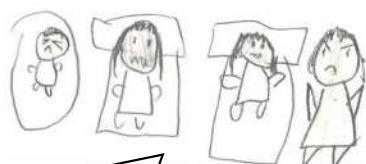
- ・自分の気持ちがすっきりする。
- ・さらにいい自分になる。
- ・規則正しい生活ができる。
- ・友達との約束を守ることができる。
- ・人に迷惑をかけない。
- ・みんなが気持ちよく生活することができる。

- ・教材を通して考えてきたことと、自分自身のことを重ねて考えさせることにより、より自分事としてさらに多面的・多角的に考えられるようになる。
- ・文章で表現することが難しい児童には、絵で表現させる。

#### ☆児童のワークシートの記述内容

- ・我慢することでいい気持ちになれる。みんながハッピーになれる気がする。
- ・我慢をしたら、約束をしていた友達と遊ぶことができる。
- ・最初は、我慢はよくないと思っていたけれど、我慢にもいいことがあると知った。
- ・我慢をすると楽しいことが待っている。
- ・いつも楽しいことをしているときに「かたづけなさい」と言われるけれど、それが自分のためになっているんだろうな。

☆わがままをせずに、よりよく生きるために自分で考えて判断するよさを感じている。(記述)



我慢をすると、家族の手伝いが  
でき、家族のためになる。

我慢をすると、友達と鬼ごっこ  
をして遊ぶことができる。

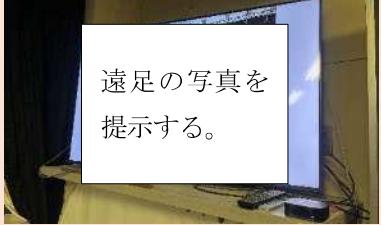


発達の段階を考慮して、文章と絵での表現を選択させた。文を書くことが苦手な児童にとっては、有効な手立てになっていた。絵で表現した児童においては、教師が聞き取りを行い、内容を把握した。

終末 3分	5 教師の話を聞く。 遠足で、皆が少しずつ我慢をしてマナーよく、楽しく過ごすことができたことを話す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我慢はつらいことだけれど、自分やみんなのために大切な大切だと思った。</li> <li>・自分たちもできているんだなあ。</li> <li>・これからも頑張っていこう。</li> </ul>	<p>本時の学習は、普段の生活の中でも大切な身構えであることを自覚させる。</p>

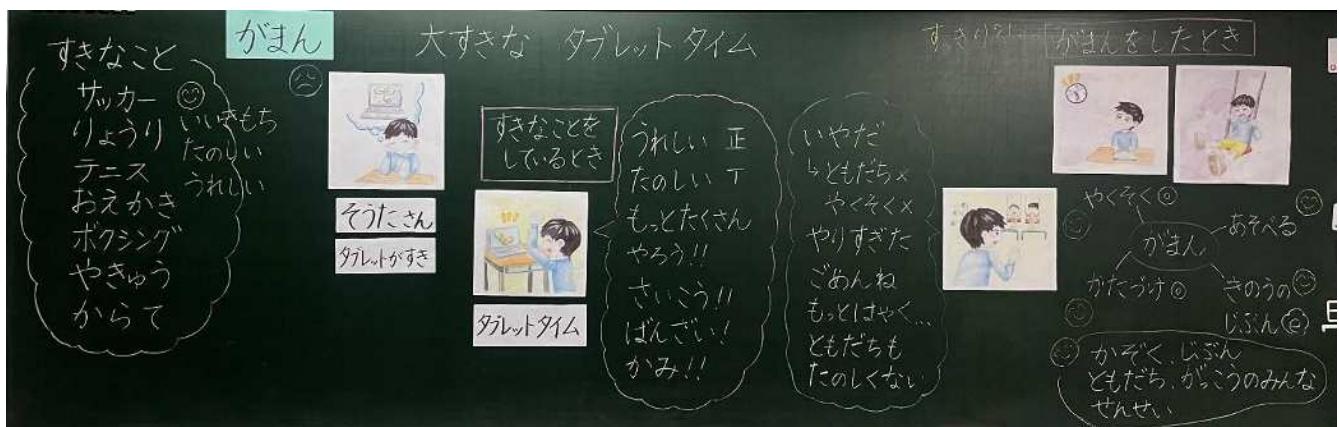
◎道徳科の学習と自己の生き方がつながる工夫

説話では、児童が節度、節制をもって行動できていた場面を提示し、普段の生活の価値づけを行い、意欲をもたせる。また、本時の学習が自己の行いや行動につながっていることを自覚させる。



遠足の写真を提示する。

## 5 板書



## 6 他の教育活動との関連

事前指導	7月 学活「約束を守ってタブレットを使おう」 タブレットを使用する際の約束を理解し、操作方法を学ぶ。
道徳科	5月 教材名『きもちが よいのは?』(節度、節制) 6月 教材名『きを つけて』(節度、節制) 10月 教材名『大好きなタブレットタイム』(節度、節制)
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室にある道徳コーナーに児童の考えを掲示する。</li> <li>・道徳ノートにコメントを書き、意欲を高める。</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業内容や児童の様子を学級だより等で紹介し、授業の内容について話題にしてもらう。</li> <li>・児童の考え方や思ったこと等を教室の「道徳コーナー」に掲示し、保護者会で来校される際に見てもらう。</li> </ul>

## 7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公の姿に自分を重ね、友達の意見を受容しながら話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・わがままをせずに、よりよく生きるために自分で考えて判断するよさを感じている。

## 事例6 小学校・高学年（5年生）

### 考え方・議論する意欲を引き出す補助発問の工夫を取り入れた授業

**1 主題名** 互いに信頼し合う友達 **内容項目** B 友情、信頼

**2 ねらい** 主人公と父親の人間関係を比較することを通して、信頼し合う関係のよさに気付く、磨き合い、高め合える友情関係を築いていくこうとする実践意欲を育てる。

**教材名** 離れていても（出典：「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」）

#### 3 主題設定の理由

##### (1) ねらいや指導内容について

本主題は、第5学年及び第6学年における内容項目〔B友情、信頼〕「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら人間関係を築いていくこと。」を深めることをねらいとしている。これは、中学校の内容項目〔B友情、信頼〕「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。」へと発展していくもので、友情関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことにに関する内容項目である。児童にとって友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友情関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向づけられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し合い、助け合い、信頼感を育んでいくことが大切である。

高学年の段階においては、これまで以上に友達を意識し、仲の良い友達との関係を深めていくこうとする。また、いつも近くにいる友達や、趣味や傾向を同じくする友達との閉鎖的な仲間集団を作る状況もみられる。しかし、物理的な距離に関係なく、互いに信頼し合うことで友情を深めることも大切である。本教材では、情報機器を手段として用いることで距離的な問題を解決できることにも触れつつ、信頼し合うことこそが磨き合い、高め合うようなより深い人間関係を築くために大切であるということについて考えを深められるようにしていきたい。

##### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、仲良く学級みんなで集まって遊ぶことが多い。7月の林間学校では、男女分け隔てなく、互いの考えを聞きながら協力して充実した2日間にしようという姿が見られた。一方で、相手の立場を考えずに自分の思いばかりを主張してトラブルになることもある。反対に、相手に遠慮をして自分の思いをなかなか伝えることができない児童もいる。これまで以上に友情関係をはじめとする人間関係を深めていくためには、自分本位な行動をしたり、過度に相手を優先させたりするのではなく、信頼し合うことによって互いに思いを伝え合い、磨き合って高め合える関係を築くことが大切である。さらに、今後成長していく中で大切な友達と離れ離れになってしまうことは誰もが経験していくこととなる。離れていてもそうでなくとも、友達と深い関係を築いていくことについて、本教材での学習を通して考えさせていきたい。

##### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、揺れ動く主人公の「ぼく」の心情を考えながらねらいに迫るものである。

「ぼく」が転校することになったことを親友の仁に伝えると、離れた友達を続けるのは無理だと言われてしまう。帰宅後、オンライン会議をしていた父に「目の前でも、オンラインで

も、相手のことを信頼しているからこそ、言い合えるんだよ。遠く離れていたって、相手に伝えたいとか、相手を大切にしたいという思いは伝わるんじゃないかな。」と教わる。父の言葉を聞いた後、すぐに仁に電話をかけた。その後も、友情関係は続していくという話である。

本教材を活用し、より深い人間関係を築いていこうとする前向きな姿勢をもたせるために、主に以下の視点について話し合う。

① 転校することを伝えた場面での「ぼく」と仁はどんな気持ちだったか。

親友であり続けたいと思う気持ちと、物理的な距離の問題があると親友を続けるのは難しいのではないかと葛藤している心情や二人の考え方の違いを押さえる。

② 父の仕事仲間との関係と「ぼく」と仁の友情関係の違いはどんなところか。

会議をしている父は、相手への信頼が言いたいことを伝え合い、切磋琢磨して互いに磨き合うことにつながっている。「ぼく」と比較すると、父の人間関係は深い信頼で結ばれた高次のものであり、友情関係においても目指すべき姿であるということに気付かせる。

③ 父の言葉を聞いた後、「ぼく」は、仁にどんな言葉を伝えたか。

役割演技を通し、相手のことを信じ、思いを伝えたいと思う心が大切だということに気付かせる。また、近くにいる友達についても目を向けさせ、信頼の下で高め合い、磨き合う友情を築くことには距離は関係がないことにも気付かせていきたい。

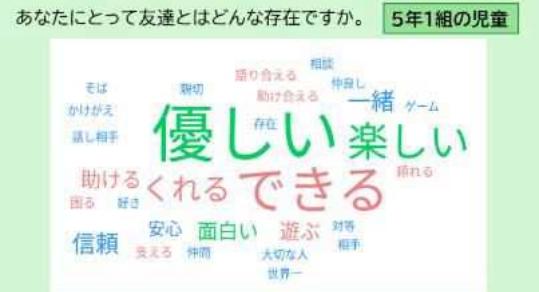
以上の理由から、本主題を設定した。

#### 4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点				
導入（4分）	1 事前アンケートの結果を知る。 ・友達とはどんな存在ですか。	<table border="1"><tr><td>児童</td><td>・一緒にいて楽しい。 ・一緒に遊んでくれる。</td></tr><tr><td>保護者</td><td>・何でも話せる。 ・相談ができる。</td></tr></table>	児童	・一緒にいて楽しい。 ・一緒に遊んでくれる。	保護者	・何でも話せる。 ・相談ができる。	・事前に端末のアンケート機能を活用してとった意識調査の結果を示し、両者の違いに目を向けて、本時の方向付けを図る。
児童	・一緒にいて楽しい。 ・一緒に遊んでくれる。						
保護者	・何でも話せる。 ・相談ができる。						

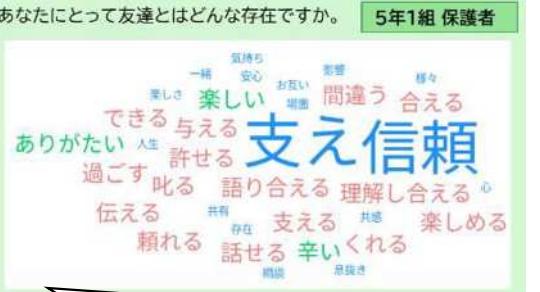
自分との関わりで問題意識をもつためのアンケートの提示（児童・保護者の比較）

あなたにとって友達とはどんな存在ですか。 5年1組の児童



優しい 楽しい  
助けられる できる  
信頼 安心 面白い 遊ぶ  
かけがえ深い 仲良し 大切な人 世界一

あなたにとって友達とはどんな存在ですか。 5年1組 保護者



支え 信頼  
できる 与える 支える  
過ごす 叱る 語り合える 理解し合える  
伝える 共有 支える 共感  
頼れる 話せる 辛い くれる  
一緒に 気持ち 楽しさ 楽しい  
できる 人生 お互い 影響 様々  
ありがとう 人生 人生 お互い 影響 様々  
できる 人生 お互い 影響 様々

本時の内容に関わる人間関係のうち、児童にとって身近な「友達」に焦点を当て、アンケート機能で質問した結果を表示した。保護者からもアンケートをとり、導入で比較した後、その後も表示しておくことで、児童はより深い関係を考える際のヒントとしていた。

		<p>問題意識を本時の課題につなげる言葉かけ</p> <p>T : どんなところが違いますか。</p> <p>C : 「支え」、「信頼」の文字が大きいです。</p> <p>T : でも、みなさんの回答にも「支え」や「信頼」はありますよね。</p> <p>C : でも、選んだ人が少ない。自分たちの中にはないものは、「叱る」です。</p> <p>C : 外れた道から取り戻すような感じかな。<b>大人の考えは深いな。</b></p> <p>T : 生きてきた先輩ですからね。でも、<u>深い関わり方とはどのようなものなのでしょうね。</u></p> <p>C : . . .</p> <p>T : 今日はみんなで考えていきましょう。</p>	
		より深い関わり方とは、どういうものだろう。	
展開 （ 3 8 分 ）	3 教材「離れていても」についての条件・情況を知る。	<p>主人公：ぼく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>父の仕事の都合で転校することになった。</li> <li>転校することを一番の親友の仁に伝えられずにいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件・情況を伝え、主人公の心情に共感しやすくする。</li> <li>二人は一番の親友であること十分に理解させる。</li> </ul>
	<p>範読に際し、気を付けたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条件・情況をわかりやすく伝えて一度で理解しやすくする。</li> <li><u>範読前に、はじめに聞く視点を伝えておく。</u></li> <li><u>範読している最中に、本時で考えさせたい部分についての言葉を付け加えて読む。</u></li> <li>挿絵のない父はAI画像で表情を2パターン作って提示した。</li> </ul> 	<p>ぼくと仁の気持ちを考えながら聞いてね。</p> <p>(電話で) どんな話をしたのでしょうか。</p>	
	4 範読を聞き、主人公の心情について話し合う。 (1) 転校の話をしたとき、ぼくと仁はどんな気持ちだったでしょうか。 補 2人の気持ちを比べて気が付くことはありますか。	<p>ぼく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>離れても友達でいたい。</li> <li>タブレットなどでつながっていたい。</li> <li>これからも一緒にいたい。</li> </ul> <p>仁</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一緒にいることができないなら友達でいられない。</li> <li>会えないのに友達を続ける自信がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ぼく」と「仁」を対比させて板書することで、2人の考え方の違いや共通点を捉えやすくする。</li> <li>考えは違っても、両者とも親友でいたいという気持ちがあることに気付けるようにする。</li> </ul>

	<p>・離れたくない。</p> <p>(2) 父の仕事仲間との関わり方が「ぼく」と仁の関わり方と違うところはどんなところですか。</p> <p>補 「ぼく」も仁のことを思っているから言い出せなかったのだから、二人にも父や仕事仲間と同じくらい深い人間関係があるのではないでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言いたいことを言い合っている。</li> <li>・信頼し合っている。</li> <li>・相手のことを思っているから言い合っている。</li> <li>・言い合えるほどすごく仲がいい。</li> <li>・言わないほうが傷つける。</li> <li>・きちんと伝えられる関係のほうがもっと深い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転校することさえもすぐに伝えることができなかつた「ぼく」と比較させ、父の人間関係からより深い関係を築くために相手を信頼することが大切であると気付かせるようにする。</li> </ul> <p>☆父の姿から気付いたことを友達の考えと比べながら多面的・多角的に考えている。</p> <p>(発言)</p>
--	--	---	--

児童の発言を深める工夫  
(補助発問・アンケートの表示)

グループでの話し合い①

T : 父と仕事仲間との関わり方が、ぼくと仁との関わり方と違うところはどんなところですか。  
C : お父さんは離れていても悲しいとか切ないという感情がないです。  
T : どうしてそう思うのですか。  
C : お父さんと仕事仲間は、オンライン会議でも楽しそう。ぼくと仁は仲がいい親友だからこそ離れていたら話せない。  
C : アンケート結果から見てもわかるけれど、「優しい」関係がよいのがぼくと仁。お父さんと仕事仲間は、「信頼」が高いから離れていても変わらないのではないか。  
大人のほうが深く信用している。わかりあっていると思います。  
T : なるほどね。 みなさんは、今の考えについてどう思いますか。  
C : お父さんは、インターネットで会えているからいいのだと思います。  
C : お父さんは、オンラインで話して信頼関係ができているけれど、僕と仁は、離れたら話せない。という印象です。最終的には忘れてしまうのではないか・・・。  
T : そうなのですね。ところで、お父さんと仕事仲間は、お互いに強く意見を言い合っていたようですが、信頼しているなら相手の考えを認めてあげればよいのではないでしょうか。  
C : 会議だから、自分の意見もきちんと言わないといけないと思います。

規律ある態度の育成

【話を聞き、発表する】

小グループでは、一人一人の発表が終わった後、話し合いの時間終了までお互いの考えを比べ合い、気付いたことを伝え合うことができるよう働きかける。

C : 相手を信頼しているし、お互いに分かり合っているからちゃんと言うことができます。

C : 言わないと自分の意見を伝えることができなくなってしまい、後で嫌な思いをしてしまいます。

T : 自分がもやもやするから、自分の意見を伝えたほうがよいということでしょうか。

C : それもあると思うのですが、家の人の考え方（大型TVのアンケートを指す）「与える」という言葉がありました。自分の意見と相手の意見が違うから、相手のためになるし、相手もぶつかってくれるという信頼があるのだと思います。

より深く価値理解に迫るための補助発問の工夫

T : 「ぼく」も相手のことを思って不安を感じたり、これからも友達でいたいって思ったりしていたのだから、お父さんと仕事仲間と同じくらい関係が深いのではないですか。

C : ちょっと違います。

T : 何が違うのですか。

C : 相手を思っている深さが違います。子供は近くにいないと嫌だと思っているけれど、お父さんはそれでも大丈夫。相手のことを深く隅々まで知っていてわかっているから言い合える。

C : 「ぼく」はなかなか言いたいことを伝えられないけれど、父ははっきり伝えています。父は信頼が深いから、本来は言いづらいこともきちんと伝えているのだと思います。

(3) 父の言葉を聞いて、「ぼく」は電話で仁にどんな言葉を伝えてしまうか。

- ・仁と離れるのはさみしいけれど、これからも親友でいてほしい。
- ・お互いを信じ合っていれば、距離なんか関係ない。
- ・オンラインなどで離れてもたくさん話をしよう。

・代表の児童が「ぼく」役、教員が「仁」役になって役割演技をする。演じる側だけでなく、見ている児童に気付いたことを話し合わせることで考えを深める。

児童から考えを引き出す役割演技の工夫

C:「ぼく」役

T:仁役

価値理解だけでなく、道徳的価値をなかなか実現できない人間の弱さにも気付かせ人間理解も深めるために、今回は教師と代表児童で役割演技を行った。

代表児童の発表の際には、聞いている児童に「心に残ったこと」を探しながら聞くように声をかけ、気付いた点を問うようにした。

T : 「ぼく」は仁に電話でどんな言葉を伝えたのでしょうか。電話をかけて話してみましょう。

C : もしもし。

T : どうしたの。

C : 今日は急に転校のこと言ってごめん。なかなか言いづらくて・・・。

T : どうして言いづらいの。

C : 仁を傷つけるかもしれないと思ったら、なかなか言えなかつた。言うのが遅くなつてごめん。  
T : いいよ。でも、もう会えなくなるんだよね・・・。

C : うん。でもぼくはやっぱりこれからも仁と親友でいたい。

T : 離れてしまうのに、親友でいられるの。

C : お父さんが言っていたのだけど、目の前でもそうじやなくとも相手の人を信頼していたり、思っていることを伝えたりすることはできるんだって。仁を大切だと思う気持ちは変わらないし、離れていても今と同じ関係をずっとずっと守つていけるんだよ。

T : それって、本当にできるのかな。新しい友達ができたらすぐに僕のことなんか忘れるかもしれないし、新しい学校のことが忙しくて連絡なんかしている時間がないかもしれないよ。

人間理解を深める発言

C : たしかに、簡単ではないと思うし、ぼくも不安はすごくある。でも、仁と親友でいたいし、仁が大事っていう気持ちは、離れても時間がたつても変わらない。だから、連絡できないときもあるかもしれないけど、これからも、できるときはオンラインや電話でつながって話をしよう。ずっと親友でいたい。

T : (聞いていた人に) どんなことが心に残りましたか。

C : さっき（学校で）と違つて今度はお互いにきちんと**言い合えている**ところが心に残りました。

C : 仁を**本当に信頼**していたり、大切に思つていたりする気持ちは伝わつてきました。

C : 不安はあるけれど、一番大事なのは、親友でいたいという気持ちはなのだと思つました。

補 みんなのように友達が  
近くにいたら、今より  
深い関係を築くことは  
できないのでしょうか。

・近くにいても深められる。  
・父のように相手に遠慮しないで伝え合うともっと深い  
関係になれそう。

・補助発問をすることにより、教材の中から自分自身の友情関  
係へと考えを広げていけるよ  
うに働きかける。

自分との関わりで考えるための補助発問の工夫

グループでの話合い②

T : 離れたあとも、さらに仲を深めることができましたね。でも、みんなのように**友達が近くにいたら、今より深い関係を築くことはできないのでしょうか。**

C : それはちがうと思います。

T : 話し合つてみましょう。（数分後）グループの話合いで出た考えを教えてください。

C : 離れていても、今までと変わらずに関係を深めることができましたが、近くにいても、関  
係は変わらないのではないか。

C : 近いとか遠いとかではなくて・・・お父さんもお家の人も言つていたけれど**信頼**し合つた  
り、伝え合つたりすることが大事だと思います。

C : 相手のことをたくさん**理解**して、**言い合える仲**になれたらいです。

教材や保護者の考えでは、離れている関係性の友情や人間関係が多いが、児童の身近な友情や人間  
関係は近くに存在するものがほとんどである。教材の中の話だけで終わらないように、最後に補助  
発問をして、グループでの話合いを取り入れ、子供たちが自ら考え、語りたくなるよう工夫した。

より深い友情関係を築いていくために大切なことは何だろう。

話し合いを経て子供たちの考え方方が深まったため、課題にも深まりが生まれた。  
そこでこの段階で新たな課題を、子供たちに投げかけた。

5 今日の学習を振り返る。  
・今日の学習を通して、友達とより深い友情関係を築いていくために大切なことはどのようなことだと思いましたか。これまでの自分を振り返って感じたことを書いてみましょう。

- ・離れてしまっても友達を信じて、オンラインや電話などもしながらお互いに思っていることを伝え合って、よい友達でいたい。
- ・友達は普段近くにいるけれど、これからも信じ合う気持ちを大事にし、思ったことは言い合っていきたい。
- ・思いを伝え合い、高め合えるようにしていきたい。

- ・アンケート結果を再度表示し、大人の友情観と自分自身を比較して振り返ることができるようする。
- ・書く活動を通じて、道徳的価値を自覚できるようする。  
☆自分自身を振り返り、距離ではなく、互いを信頼し合うことが友情を深めるために大切なことを、自分との関わりで考えている。(ワークシート)

#### 「自己を見つめる」ための書く活動

- ・会えないと友達の意味がないと思っていたけれど、近くにいなくても気持ちは変わらないことがわかりました。会えても会えなくともずっと信じられる友達をつくっていきたいです。
- ・より深い関係にするためには、お互いを信じる信頼関係が大切だと思いました。これからはさらに友情を深められるよう、お父さんと会社の人のような信頼関係を気付き、意見を言い合ってお互いのためになる関係になっていきたいです。
- ・私は、今日の学習を通して、本当の友達なら、近くにいても離れていてもずっと友達のままなんじゃないかと思いました。私も仲良しの友達がいるけれど、正直、何でも言うことはできません。でも、もっとたくさん分かり合って、何でも言い合えるくらいになりたいです。

6 林間学校で歌った歌をみんなで歌う。

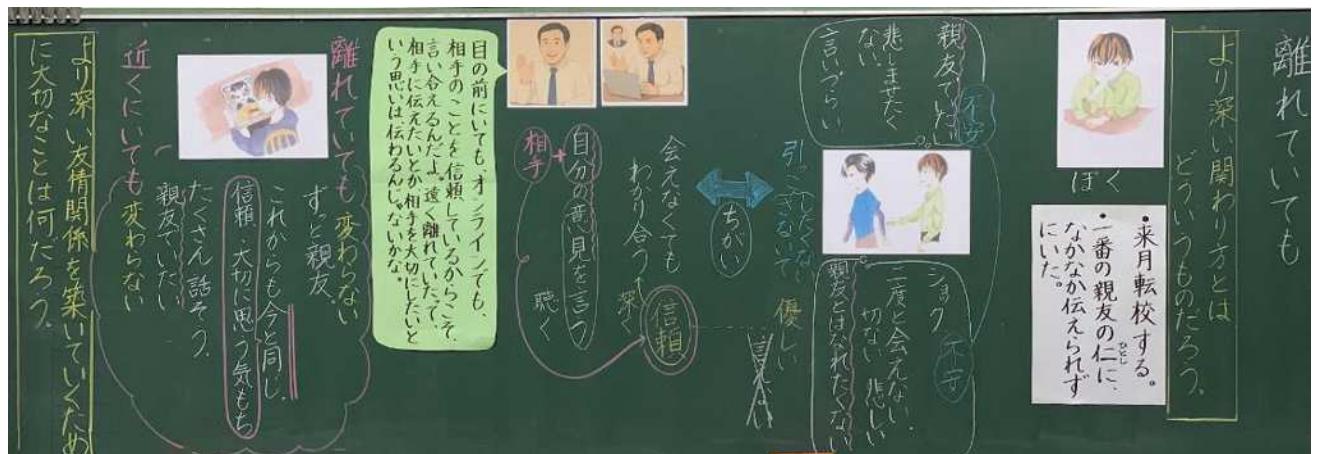
#### 心をあたためて締めくくる終末

終末では、林間学校のキャンプファイヤーで歌った歌をみんなで歌った。林間学校の前に学年みんなで話し合って曲を決定した。林間学校では友達と衝突することもあったが、自分たちでどうすべきかを考えて行動し、相手の思いを聴いたり、自分の考えを伝えたりしてそれを乗り越え、友情を深めて成長して帰ってくることができた。児童は、キャンプファイヤーの終盤にみんなで肩を組み、心を込めて学年で決めた歌を歌った。歌い上げて子供たちの絆の深まりに感動した。林間学校でのお互いに高め合い、磨き合って深めた友情を第一歩として、歌詞に含まれる内容

終  
末  
（  
3  
分  
）

のように一緒にいる今も、離れることになる未来にも、信頼し合える大切な友達のよさ存在を感じてほしいという願いを込めて、終末に歌を歌った。

## 5 板書



## 6 他の教育活動との関連

事前指導	事前アンケートを取り、児童の友情観に対する実態把握をするとともに、問題意識をもたせる。
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月 教材名『すれちがい』（相互理解・寛容）</li> <li>・10月 教材名『ひみつのグループトーク』（友情・信頼）</li> </ul>
事後指導	グループでの活動を積極的に取り入れ、協力して高め合う活動を継続的に行ってよりよい友達関係を築いていく。
家庭との連携	アンケートに協力してもらい、事後にも授業の様子を伝えることで、家庭でも道徳的価値について話し合う機会となるようにする。

## 7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・父の姿から気付いたことを友達の考えと比べながら多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分自身を振り返り、距離ではなく、互いを信頼し合うことが友情を深めるために大切であることを、自分との関わりで考えている。

## 事例7 中学校・1年生

### 自己の生き方・考え方について、多面的・多角的に考える授業

1 主題名 充実した生き方を求めて 内容項目 A 向上心、個性の伸長

2 ねらい 登場人物の心情を多面的・多角的に考え話し合う活動を通して、ジェンダーバイアスの問題に気付き、性別に関わりなく自分らしい生き方を追求する心情を育てる。

教材名 男らしさ女らしさ、自分らしさ

(出典：「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」)

#### 3 主題選定の理由

##### (1) ねらいや指導内容について

本主題は、自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求することに関するものである。多様な生き方が認められるようになってきた現代であるが、中学生の発達の段階では他者と異なることに抵抗をもつ生徒が少なくない。これから時代を生きていく生徒たちが「自分らしさ」を出すことを恐れず、互いを尊重し、他者との関わりの中で自分らしさを發揮して充実した生き方を追求するためにどんなことを大切にしたいか、自分事として捉えさせたい。

##### (2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

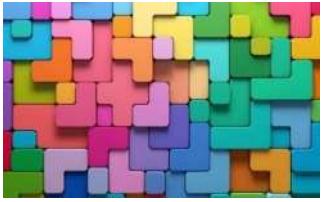
年度当初から学年集会等において、他者と異なることは普通であり否定するものではないことを学習してきている。しかし、自分にとっての「普通」と異なる言動や価値観をもつ相手に対して、幼さから陰口を言ったり避けたりすることがあった。自分らしく生きている人たちの存在については、例えば芸能界やSNS等で認識している。一方で、自分自身も多様の中の一人であることや、主人公のような悩みを抱える人たちに対してバイアスをもっている自覚はない。一人ひとりが自分らしく生きやすくなるために、自分にできることについても深く考えさせたい。

##### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公が友達との関わりの中で「自分らしく」生きることについて考えていく内容である。主人公のように「自分らしさ」を出すことを躊躇するのはどうしてなのか、多面的・多角的に考える活動を通してねらいにせまっていく。個性とは、他者との関わりの中で気付いたり伸ばそうとしたりするものであり、個性を出しやすい環境の存在も必要である。みんなが自分らしく生きやすくなるために、自分にできることについても深く考えさせたい。なお多様な考え方をもつ生徒もいるので本教材を活用する際、配慮する必要がある。

#### 4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 7 分	1 ピンク色と水色の紙を配布し、好きな方を一枚選んで取らせる。(色の枚数は、それぞれ座席の男女の人数と合わせてある。)	・(特に何も指示されないけれど)どちらの色を選べばいいのかな。	・課題を明確にする。ジェンダーバイアスをもっていることに気付かせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
	課題を自分事としてとらえ、問題意識を高めるための導入  S: 男子が水色ですか? → T: 何でもいいですよ。 S: (縦列の男女の人数を数えて、性別によって色分けされていると判断する。) S: (男子)面白いからピンクにしよう。T: (配布した後は、特に何も言わない。)	体験をもとに「自分もジェンダーバイアスをもっている」という課題意識をもたせることが目的である。	

導入 7分	<p>T : (画面に右の絵を映す。) この中から、「自分らしさ」を表す色を一色選んで下さい。選んだ色とその理由について意見交換をしましょう。 →S : (3人班で意見交換をする。)</p> <p>○生徒の会話の一部</p> <p>S : 「私は前向きだから黄色。」 S : 「確かにそうかもね。いいね。」</p> <p>S : 「俺は習っているサッカーとかに熱くなるし負けず嫌いだから赤。」</p> <p>S : 「難しいなあ。ちょっと優柔不断だから紫。」</p> <p>T : それでは、自分が選んだ色に手を挙げてください。赤・オレンジの人はいますか。</p> <p>T : みんな選んだ色が違いますね。最初に選んだカードを、みんなが見えるように上げてください。(全体を確認する。) 何か感じことはありますか。</p> <p>S : <u>男子は水色、女子はピンクが多い。</u></p> <p>T : どうしてその色を選んだのですか。</p> <p>S : なんとなくイメージがある。 →T : (画面に右の絵を映す)</p> <p>T : こういうイメージはありませんか。 →S : (うなずく)</p> <p>T : <u>このイメージや思い込みを、ジェンダーバイアスといいます。</u></p> <p>先生も含めて、みんながもっていると思います。でも、みんなが選んだ自分らしい色はバラバラでした。このように、本当は性別関係なく一人一人違う好みや個性、自分らしさをもって生きてよいはずであると思いませんか。</p>	
----------	--	---

(1) 学習課題を確認する。  「自分らしく」生きることについて考える。	・自分たちはジェンダーバイアスが存在する中で生きているが、それによる違和感や課題も存在していることを実感させる。	
2 教材を読んで話し合う。 【p.2 終わりまで範読】 (1) あなたは、寛幸のような気持ちを経験したことがあるか。  【p.3 から範読】 (2) 登場人物の4人は、「個性」に対してそれぞれどのような考え方をもっているのだろうか。 ・3人班で意見交換をする。 ・全体で意見交換、共有をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(女子) スカートを履きたくなかった。</li> <li>・自分の好きなものが変なのか、友達と比べて悩んだ。</li> <li>・(男子) 小学生の頃、お菓子作りが好きだったが、バカにされた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの自分の生き方と重ね合わせて考えさせる。寛幸が自分の好きなものや、やりたいことに自信をもつことができないことに気付かせる。</li> <li>・拓巳のようにジェンダーバイアスをもっていることに気付かせる。</li> <li>・意見の発表会ではなく、お互いの意見に対して「なぜそう思うのか」などと聞いたり、話合いを通して考えが深まったりする活動にさせる。</li> <li>・恵や星香のように、自分や相手の個性を大事にする生き方のよさに気付かせる。</li> </ul>
<p>○寛幸について</p> <p>S : 自分の個性だから、自分の好きでいいじゃないか。</p> <p>S : 個性は大事にしたいけれど、本当の自分を出しづらい。</p> <p>S : 好きなものは人それぞれで、それが個性なのに。</p> <p>T : どうして出しづらいのかな。</p> <p>S : 周りと違うと思われそう。バカにされそう。</p>		<p>予想通り、「寛幸のような気持ち」を経験したことがある生徒は少なかったが、経験がないからこそ、寛幸のモヤモヤした気持ちや悩みを想像する活動につながった。</p>

## 考えを深めるための補助発問

## ○拓巳について

S : 拓巳の中で、性別による概念が決まっている。

T : どうして個性に対してそういう考え方なのかな。

S : それが拓巳の個性だから。

T : 拓巳の考えは間違っているかな。悪い人かな。

S : 悪い人ではないけど、個性を否定されて嫌な気持ちになる人はいるかも。

S : 拓巳に賛成はできないけど、拓巳の意見によって考え方が変わり、星香のように「自分らしさ」を大事にしようと気付けるかも。

拓巳の発言は時代に相応しくないが、拓巳のような存在も必要であるという結論が出ていた。

「拓巳の意見によって考え方が変わるかも」という意見は非常に興味深く、聞いている生徒たちは「なるほど。」「確かに。」などとつぶやいていた。

## ○星香について

T : 次は星香について考えます。 → S : 星香かっこいい。

S : 確かに。

T : どんな所がかっこいいと感じますか。

S : 周りを気にせず、自分の好きなことを貫いている。

T : 自分の好きなことを好きと言える。

T : どうして星香は自分の個性を大事にしているのだろう。

S : 自分の考えを大事にしたほうが、人生が楽しくなる。

S : そのほうが自分を好きになる。

このような反応があったので、問い合わせをしてみた。その後の星香の分析についても、生徒たちなりの言葉で星香の考え方をまとめることができていた。

星香の分析については、本時の内容項目と深く結びついているため、彼女のよさを掘り下げて考え、話し合いで深めることができていた。

以下の（ ）内のように、「性別関係なく自分らしくあることのよさ」まで掘り下げていけるように発問をしていくことが重要である。

(S : 性別関係なく、自分の好きなことを大事にしている。)

## ○恵について

S : 個性は尊重するべき。大事にするものだと思っている。

S : 性別による基準や当たり前の価値観をもっていない。

T : どうして恵は個性を尊重しているのだろう。

S : 個性を大切にしないと、自分が自分じゃなくなるから。

S : 性別の基準はいらない。すると、自分の好きなことができないし自分らしく生きられない。

下線の意見は、本時のねらいにせまるものだと感じ、終末につなげた。

## 3 恵や星香のように、自分の個性を大事にしている人を知る。

今回はドראグクイーン（※主に男性が女性の衣装を身に付けてパフォーマンスを披露するパフォーマー）を紹介する。

・恵や星香のように、自分の個性を大事にする人の生き方のよさに気付かせる。また、個性を尊重してくれる理解者が周りにいると、「ありのままの自分らしく」生きやすくなることも気付かせる。

☆多様な価値観を認め合う環境で「自分らしく」生きるよさについて、様々な視点から考えている。（机間指導・発表）

ねらいとする価値について自分事として捉えさせる教材の工夫

T : 星香や恵のように、自分らしさを大切にしている方を紹介します。  
(順番に写真を写す。ドラッグクイーンの紹介と同一人物であることを伝える。)

S : (驚きの声が上がる。)

T : 写真を見てどう感じましたか？

S1 : 派手。 S2 : かっこいい。 S3 : 目立つ。

T : どんな所がかっこいいと感じますか？

S : 自分の好きなことを貫いている所。

S : 性別関係なく、自分の好きなことをやっている所。

T : 嫌な思いをしたらごめんなさいね。  
では、友達が性別のイメージと違うものが好きだったとしても、応援できますか？

◆写真を見せた目的  
一つ目に、中学生という発達段階をふまえ、教科書のお話の中からあえて一度離れ、自分の生活を現実的に考えさせたかったからである。二つ目に、現実に存在する人物であり、生徒にとって視覚的な印象として強いと考えた。  
ドラッグクイーンの方は芸能関係者であるため、認められている感覚が強い。

この教材はジェンダーの問題が色濃いものではないが、多様な生徒がいることに配慮が必要だと考える。学級の実態によっては、発問の仕方や教具・資料等には配慮が必要だと考える。

ドラッグクイーンの方は芸能関係者であるため、認められている感覚が強い。生徒の実態に配慮しつつ、自分の生き方と結び付けて考えさせたかったため問い合わせた。

S : すぐに発言が出なかつたり、渡々「なんてリアクションをするか悩む」という発言が出たりした。また、発言していいのか悩んでいる様子もあった。

S1 : 驚いてしまうかも。 S2 : 戸惑う気持ちがあるかも。

生徒たちに感じてほしかったのは、ジェンダーバイアスによって違和感を抱くこともあるのが現実であり、この感覚を完全になくすのは難しいかもしれないことである。ただし、「好きなものや個性を否定するのは違うこと。」「周りに星香や恵のような人がいると、みんなが自分らしく生きやすいかもしないこと。」などを説話の一つとして加え、終末の「自分」のこれから生き方を見つめる活動につなげた。

4 振り返りをする。 •みんなが「自分らしく」あるために、「私は」どのような思いを大事にしていきたいか。 (1)本時の学びをもとに振り返りを書く。 (2)発表する。	•相手の好きなものを尊重する。 •普通を決めつけない。 •自分と違っても否定しない。 •自分らしく生きて、みんなも同じようにしやすい環境にする。	☆みんなが「自分らしく」あるために、「私は」どんなことを大事にしていきたいか、自己を見つめて考えている。 (ワークシート・発表)
---	---	---

本時の学びをもとに振り返りを書くための指導の工夫

理想論や他人事のような振り返りで終わらないよう、「私が」大事にしていきたいことという視点をもって振り返りをするよう話をした。多くの生徒は、「誰もが自分らしさを出しやすい環境」が大事だと捉えていた。これだけでは他人事だが、「友達が自分と違っても受け入れたい。」や「友達の好きなことを支えられる人になりたい。」など、自分が周りとどのように関わって生きていくのか考えた記述もあった。また、これから自分の生き方について考えたことが分かる記述も多かった。例えば、「自分の人生は自分のものなので、自分らしさをつらぬきたい。」「周りに何と言われても、自分の個性に自信をもちたい。」「決めつけないで生きてていきたい。」などである。一人一人、自己を見つめることができていたと考える。

終 末 2 分	5 教師の説話を聞く。		
	<p>説話の工夫</p> <p>生徒の振り返りを複数人に発表させた際、教師の説話が不要だと感じるほど、一人一人が教材に対して深く考えられていると感じた。そのため、生徒たちには率直に「私のお話はいらないほど、みんなよく考えることができますね。」と伝えることにした。この教材に限らず、今まで同じような経験がある。生徒の振り返りが「十分価値にせまることができている」と感じた際は、教師の説話は生徒の力を借りつつ、シンプルな言葉でもいいのではないかと考える。今回は、「友達を『支えたい』」という言葉に対して、このような気持ちを抱いたすばらしさやよさを全体で共有した。「このように思ってくれている友達がいたら、自分らしく生きやすくなるね。」という言葉も添えた。また、一人一人が違うことや、それは素敵であることに再度触れ、「自分を大事にして生きていこう」というまとめにつなげた。</p>		

5 板書



## 6 他の教育活動との関連

事前指導	事前アンケートにより、ジェンダーバイアスについて考えさせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
事後指導	振り返りを掲示し、自分がどのようなことを大事にしていくのか意識させる。
家庭との連携	生徒の振り返りを学級通信等で紹介し、家庭でも生徒たちの心の発達の段階を把握してもらったり、「自分らしさ、個性」について話題にしてもらったりする。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・多様な価値観を認め合う環境で「自分らしく」生きるよさについて、様々な視点から考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・みんなが「自分らしく」あるために、「私は」どんなことを大事にしていきたいか、自己を見つめて考えている。

## 事例8 中学校・2年生

### 実体験を聞き、よりよい生き方について考える道徳授業

- 1 主題名** 集団生活を充実させるには **内容項目** C よりよい学校生活、集団の充実  
**2 ねらい** コロナ禍で活動が制限された方々の心情を多面的・多角的に考える活動を通して、学校や学級の一員として、今の自分の役割や責任を果たすことのよさに気付き、よりよい集団生活の充実を目指そうとする実践意欲を育てる。

**教材名** コロナ禍で気付いたこと(出典:「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」)

#### 3 主題設定の理由

##### (1) ねらいや指導内容について

学校の集団生活は、家庭のような私的な集団生活とは異なり、生徒一人一人が自分自身の役割と責任を果たすことや、教師・生徒同士等互いの人間関係を深め、協力して生活することで自分の立場や意義が見えてくる。人間はいろいろなコミュニティをもち生活している。そのコミュニティでは、目標や立場の異なる人と関わりながら共同生活をしなければならない。人がコミュニティの一員としてよりよく生きていくために、自分の属する集団の意義や目的を十分に理解し、自分の役割と責任を果たし集団生活の充実に努めることが大切である。また、集団の中で自分の役割や責任を自覚することは、集団生活が充実するだけにとどまらず、自己の資質・能力を高め自分自身の向上につながることになる。

中学校の段階では、集団への帰属意識も十分とは言えない傾向にあるが、学年が上がるにつれ集団の一員としての自覚が高まっていく。一方で自我意識の高まりもある中で、自己の思いが先行してしまったり、排他的になったりすることもある。

そこで、集団の在り方について多面的・多角的に考えさせたい。特に、今の生活のありがたさを感じながらも、コロナ禍での実体験を複数取り上げることで、その時の人々の思いを捉え、よりよい集団生活について考えを深めたい。

##### (2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本学級の生徒は、日頃から協力し合って生活をしている。集団生活もしっかりと行い、学校行事などにも一生懸命に取り組んでいる。しかし、少ない人数であるが故に今ある環境に満足してしまい、さらに向上してよりよい集団として考えを深める意識は低いように感じることもある。1年次では、道徳の授業で学校の一員としての自覚をもち協力してよりよい学校生活をつくろうとする実践意欲を育んできた。また、1年次の宿泊体験学習でも集団生活を通して、規範意識の向上やそれぞれの役割を考えた学校行事を行ってきた。

そこで、今回は今の生活が当たり前ではないことを自覚させ、恵まれた環境の中で自分の役割や学校・学級の一員として何ができるのかを考えさせ、集団生活を向上させるにはどうしていけばよいのかを考えさせていきたい。

##### (3) 教材の特質や活用方法について

カナコとケンタの二人の話を通じて、二人の思いを考えながら、自分自身のこととして捉えさせる。さらに、実際、コロナ禍に中学生だった地域の方にも協力してもらい、実体験を手紙で話を聞く中で、3つの話を聞きながらいろいろ人の思いを多面的・多角的に捉え、自分の今の生活をより充実させることを考え、深めさせる。

#### 4 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 (6分)	<p>1 普段の生活で理不尽に活動を制限された経験やその時の想いについて触れる。</p> <p>2 卒業生の体験談について話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム、携帯のやりすぎで、親からダメだと言われた。</li> <li>・部活でやりたい練習が、顧問の指示で別の練習になった。</li> <li>・イラついてしまった。</li> <li>・指示だから仕方がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に自分の体験をしたときの気持ちを思い出させる。</li> <li>・コロナ当時の中学生の実体験を知る。</li> <li>・卒業生の体験談を聞くことで、自分事として考えやすく、今の生活が当たり前ではないことを捉えられるようにする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <b>体験談を生かし、問題意識を高める導入の工夫</b> <p>初めての緊急事態宣言は中学2年生の時だった。緊急事態宣言により、学校に行くことができなくなり家の中での生活となった。その時のことと思い返すと、ただ何が起きたかわからず、ひたすらに不安を感じていたことを覚えている。友達と会うこともできず、誰とも遊ぶこともできない。そんな生活が何週間と続いた。当たり前だった日常が大きく変わり、何もかも予想できないことばかりだった。学校にも行けなくなり、友達とも遊べない。少しずつ緊急事態宣言が緩和されても、マスクをつけた生活が当たり前。私が特に印象に残っているのは黙食だ。コロナ禍では、誰とも話せず奇妙な感覚だったことを覚えている。三密に気を配り、気の抜けない生活だった。部活動の大会や修学旅行などの重大なイベントは無くなった。コロナウィルスによって自分たちが本来体験する思い出は失われた。</p> </div>	3 教材の範読を聞く。 条件・情況を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物 カナコ ケンタ</li> <li>・コロナ禍 ・我慢の日々</li> </ul>	・コロナ当時の社会の状況の話を聴き、確認するとともに、学校生活についても話をしてどのような環境下での生活だったのかを知る。

展開	<p>4 カナコとケンタ、卒業生の心情を話し合う。</p> <p>(1) カナコやケンタ、卒業生はコロナ禍の際にどんなことを考えていたのだろうか。</p> <p>(2) 大人や社会の立場としてはどんな考えがあると思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやりたいことができない。</li> <li>・理不尽に取り上げられる。</li> <li>・悲しすぎる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが流行るのはよくない。</li> <li>・我慢して生活しなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたいことができない悔しさや悲しさに共感させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世間の風潮として納得しなければいけないことを挙げて葛藤させ、気持ちがもやもやして答えが出せないようにする。</li> </ul>
----	--	--	--

考え方を深めるための問い合わせの工夫

T : カナコやケンタ、卒業生はコロナ禍の際にどんなことを考えていたのだろうか。

S : 自分のやりたいことができない。

S : 行事もなくなつて悲しいし、理不尽すぎる。

T : 一方で大人や社会の立場としてはどんな考えがあると思いますか。

S : 流行したら困るし、自分もかかりたくない。

S : みんなも我慢しているから、仕方がないよね

T : 仕方がないからって、自分の楽しみにしてきたことや力を発揮した場面がなくなるのは、本当に納得がいきますか。

S : いや、でも世間はやらないし…

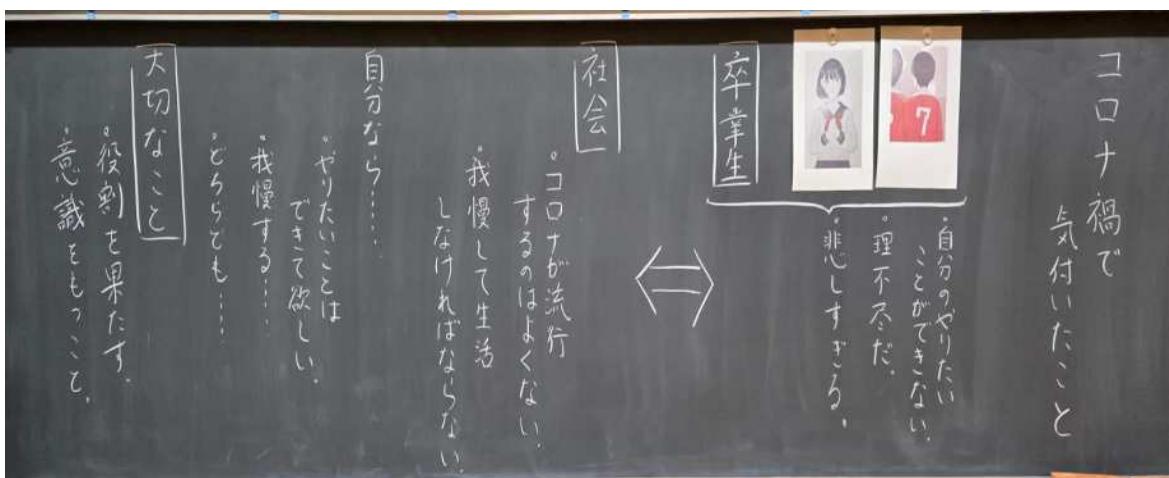
S : 行事がないのは嫌だな…

<p>(3) カナコとケンタ、大人や社会の立場の考え方を通して、同じ状況下に置かれたときに自分ならどう考えますか。</p> <p>(4) コロナ禍と比較して、現在の生活は</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらともいえない。</li> <li>・やりたいことができるようになりたい。</li> <li>・自分がかかりたくないから我慢する。</li> <li>・家族に迷惑が掛からないようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の生活が幸せだな。</li> <li>・自分のやりたいことがやれ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の頑張っていることや、やりたいことができない状況を想像することで、自分事として捉えられるようにする。</li> </ul> <p>☆学級、学校の一員として、集団の在り方について多面的・多角的に考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまであったが無くなってしまった学校行事</li> </ul>
---	--	--

	<p>どう変わりましたか。</p> <p>(中心発問)</p> <p>(5) 集団として、今、生活できるからこそ大切にしたいことは何ですか。</p>	<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽になった。マスクをつけるなくてもよくなつた。</li> <li>・今の生活は、学校行事もできて満足している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割を果たすこと。</li> <li>・互いにコミュニケーションを取ること。</li> <li>・思いやりをもって接すること。</li> <li>・意識をもって生活すること。</li> </ul>	<p>やコロナ禍での生活(部活動、修学旅行、マスク着用、給食など)との比較をさせる。</p> <p>☆学級、学校の一員として、集団の在り方について多面的・多角的に考えている。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を10分程度取ることで、自分自身の中でじっくりと考えさせる。</li> <li>・記入したコメントを回して読み、共感できるところなどにラインを引くように指導する。</li> </ul>
<p>多面的・多角的に考えるための話し合いの工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 個人で考える時間</li> <li>② ペアで考えを共有する時間</li> <li>③ 教室を自由に動いて、離れた人との考えの共有をする時間</li> <li>④ 話した内容を含めて自分の考えを再構築する時間</li> <li>⑤ 記入した内容を、10人程度で回して読み共有する時間</li> </ol>			
<p>生徒のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が意識して生活することが大切だと思う。今は、まだ自分を含め一人一人の意識が足りないと思う。私たちは1年生の頃から、休み時間と授業でのメリハリや時間を見て行動することに対して、注意されてきた。今年はもう3年生、学校代表ともいえるので、ほかの学年の見本となるよう、気を引き締めて生活していきたい。</li> <li>・みんなが協力し合い、学級目標を考えながら生活すればいいと思いました。昔はコロナなどで学級活動などでもできなかつたけれど、今は自由にやりたいことができるので、自由だからといって規則を守らなくてもよいということはないので、目標が達成できるように頑張っていきたい。コロナ禍では自分の努力が發揮できないことも多かつたので、今私たちができるることをきちんと考え方実行していきたいです。</li> </ul>			

終末 (4分)	5 卒業生の現在について話を聞く。		・卒業生の今の思いを聞き、今をよりよく充実した生活にするために生徒一人一人が考えるきっかけとする。
	体験談を今後の実践意欲につなげるための終末の工夫		<p>過去に体験したことを教訓に、今いろいろなことに全力で取り組もうと思えることや、誰かと話したり笑い合えたりすることが貴重に感じる。悪いこともあったけれど良かったこともあったと今は感じている。</p>

5 板書



## 6 他の教育活動との関連

事前指導	毎月、学習・生活・運動について頑張る目標を書かせる。
事後指導	学校行事を通して、集団としての在り方や学級の一員として貢献できることを実感できるようにする。
家庭との連携	学級通信等で共有し、家庭でも話題にできるようにする。

## 7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・学級、学校の一員として、集団の在り方について多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自己との関りで深めている様子】

- ・学級、学校の一員として、協力し合って集団生活の向上に努めることを自分事として考えている。

## よりよい授業づくりのために②



### 発問づくりのポイント②

発問によって児童生徒の問題意識や疑問などを生み出し、多様な感じ方や考え方を引き出します。

児童生徒の思考を予想し、それに沿った発問や、考える必然性、切実感のある発問、自由な思考を促す質問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けます。

### I 発問について

道徳科の発問は、一般的には次の3種類の発問が考えられます。

#### 中心発問…授業のねらいに深く関わる中心的な発問

「価値観同士の対立」や「生き方が問われる場面」、「行為の選択が求められる状況」など、多様な考え方や感じ方を引き出せるような場面を問うなど

#### 基本発問…中心発問を生かす前後の発問

中心発問の前に、分かっているけどできないといった人間の弱さなどを引き出すなど  
中心発問の後に、ねらいとする価値について、見つめ直されることで、自覚を図るなど

#### 補助発問…中心発問や基本発問を補ったり、深めたりする発問

児童生徒の思考を予想し、価値観を更新していくよう問い合わせていくなど

道徳的価値は、具体的な道徳的場面においてこそ実感され、深められるものです。

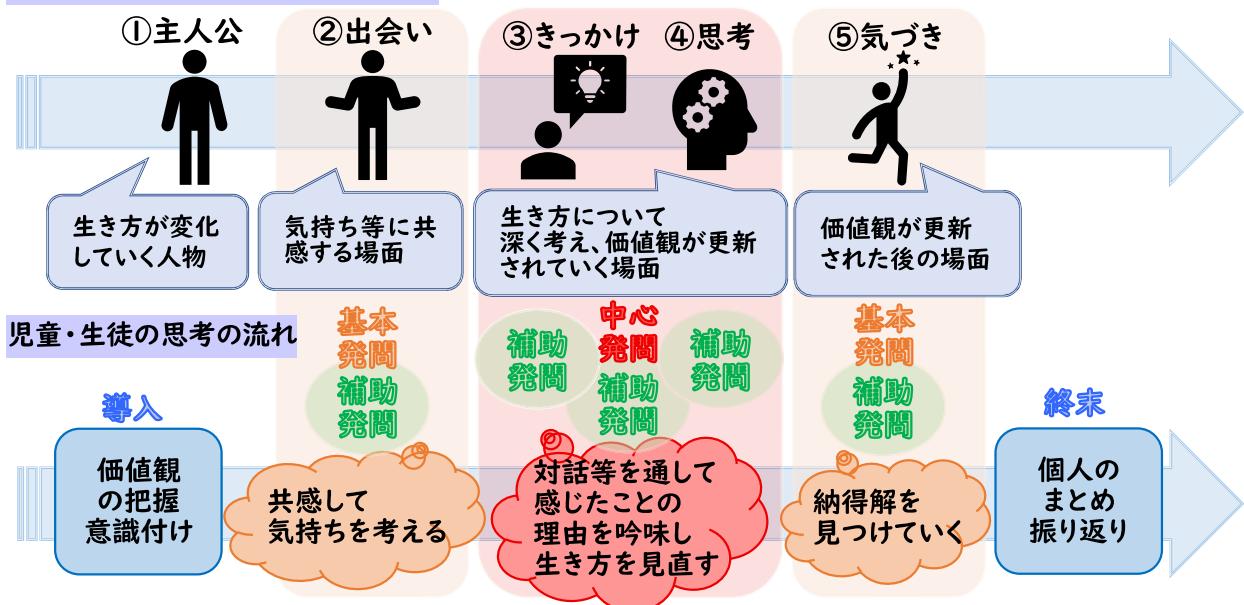
教材の中から、道徳的な問題が生じている場面や、生き方が問われる場面を見つけ出し、その場面を中心に児童生徒の考え方や想いを引き出す問い合わせを設定しましょう。



## 2 授業構想の例

教材に描かれている道徳的価値とその論点を明確に捉えることがポイントです。  
その際、教材の構造を図にすると分かりやすいです。

#### 登場人物の変容の流れ【イメージ例】





## 指導方法の工夫

埼玉県マスコット「コバトン」

指導方法の工夫は、道徳性を養う学習活動を決められた時間内でより効果的に行うための手段です。

指導方法の工夫が、目的ではないことに留意しましょう。

指導方法	ポイント
教材提示	<p>教師による読み聞かせで行なうことが一般的です。 大切なことは、児童生徒が教材の内容を短時間で理解できるようにすることです。 読み聞かせ以外にも、「紙芝居」「ペーパーサート」「音声や音楽の効果の活用」「映像」などの方法もあります。</p>
話合い	<p>「ペア」「小グループ」「学級全体」などの話し合いの形態があります。 話し合いを活性化させるための思考ツールも効果的です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【思考ツール例】 心情メーター・座標軸・ベン図・付箋・ホワイトボード など</p></div> <p>いずれにしても教師が何のためにその方法を取り入れるのか意図をもつことが大切です。</p>
書く活動	<p>話し合い同様、何のために書くのか目的を明確にします。 書く活動を効果的に行なうためには、児童生徒が何を書くのか明確な指示を出すことが必要です。 また、1単位時間には限りがあります。 考える時間、話し合う時間を確保すると書く活動を多くとることはできません。 <b>書かせる回数と時間の吟味</b>が必要です。</p>
役割演技等の表現活動	<p>児童生徒に問題場面を想定して演技をさせます。 児童生徒の演技の背景には、本人が自覚していない道徳的価値についての考えが隠れています。それを引き出す効果があります。 「役割演技」や「動作化」などの方法があります。</p>
板書	<p>児童生徒の思考を整理したり、深めたりする重要な手掛かりとなるものが板書です。 児童の学びの深まりにより効果がある方法を選択してください。</p>
説話	<p>終末に説話をを行ななければならないということではありませんが、説話には次のような効果があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①児童生徒にねらいとする道徳的価値をより身近に感じさせる</li><li>②児童生徒にねらいとする道徳的価値を一層主体的に考えさせる</li></ul> <p>※教師の考え方の押し付けにならないように注意しましょう。</p>
ICTの活用	<p>道徳科では、視野を広げて、多面的・多角的に考えることが大切です。 「①自分の考えをもつ ②他者の考えを知る ③他者と議論する ④全体で共有する」 ICT端末でこうした学習活動を効果的に行える場合に使用するとよいでしょう。</p>



埼玉県マスコット「コバトン」

## 学習指導案 作成の ポイント

道徳科の学習指導案は、教師の指導の意図や構想が表現されることが好ましく、教師自身の創意工夫を生かして作成していきます。

したがって形式に決まった基準はありませんが、一般的には次の内容が考えられます。

### 第〇学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)  
授業者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 主題名 ➡ ねらいと教材で構成し、授業の内容が概観できるように端的に表した言葉です。
- 2 ねらい ➡ 別資料「よりよい授業づくりのために」を基に、構想したねらいを記述します。※詳細は次のページ
- 3 主題設定の理由
- (1) ねらいや指導内容について  
➡ 学習指導要領を踏まえて教師の捉えを明確に記述する。
- (2) これまでの学習状況及び児童(生徒)の実態  
➡ ○道徳的価値に関わるこれまでの指導  
○その結果としての児童生徒のよさと課題  
○だから～を考えさせたい 等を記述する。
- (3) 教材の特質や活用方法について  
➡ ○教材の簡単なあらすじ  
○教材のどの場面や発言を取り上げて、ねらいにせまっていくのか 等を記述する。

### 4 学習指導過程

学習活動・主な発問	予想される反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
・児童生徒目線で記述する。 ・主な発問は、自分が実際に話す言葉で書くとよい。	・発問に正対した児童生徒の反応を予想して記述する。 ・予想した反応に対してどう問い合わせるかをイメージしながら記述する。	・発問の意図、手立ての意図を記述する。 (例)～について考えるために、役割演技をさせる。等

### 5 他の教育活動との関連

### 6 評価の視点

- ➡ 評価の2つの視点から、本時における学習状況を見取る視点を記述します。  
語尾は「～しようとしていた。」「～に気付いていたか。」等

### 7 板書計画

- ➡ 教師が意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮きだせたりする工夫をすることが大切です。



## ねらいの設定

埼玉県マスコット「コバトン」

別資料「よりよい授業づくりのために」を基に、**本時の授業で具体的に考えさせたいこと・気付かせたいことを決め、ねらいに示していきます。**

**ねらいの示し方は、授業の改善・充実のために大変重要です。**

# I ねらいの示し方の基本

【参考 埼玉県小学校教育課程資料・評価資料 p253】

**<A>**を通して、**<B>**に気付き(を理解し) **<C>**を育てる(高める、養う)。

**<A>**…**<B>**を考えさせるために、教材のどこをどう活用し、何を中心に学習させるか。

**<B>**…本時の授業で具体的に考えさせたいこと、気付かせたいことは何か。

**<C>**…道徳性の諸様相からどのような資質・能力を育むのか。



道徳性の諸様相とは、**道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度**のことです。

この時に、重点的に身に付けさせたい**<C>**で示す道徳性の諸様相と**<A>**で示す学習活動との整合性が取れるように留意しましょう。



→ (例) 小学校中学年教材「新発売のカード」(A正直・誠実)

◎道徳的判断力の育成に重点をおいた場合

人は時として過ちを犯すことがあるが、その時どのように対処すればよいかを話し合う活動を通して、過ちを改め、正直に明るい心で生活していくための**判断力を育てる(高める)**。

◎道徳的心情の育成に重点をおいた場合

人は時として過ちを犯すことがあるが、その心の内やその後の行動を考える学習を通して、正直に伝えたときの気持ちのよさに気付き、正直で明るい心で生活しようとする心情を育てる。

◎道徳的実践意欲と態度の育成に重点をおいた場合

人間的な弱さから生じる道徳的問題の解決策や、正直という道徳的価値の意義を考える学習を通して、正直とは、過ちは素直に改めることであると理解し、正直に明るい心で元気よく生活していくとする**態度を育てる(養う)**。



## 2 具体例

- 親切にされた時の登場人物の心情の変化について考えていくことを通して、親切にすることのよさに気付き、身近な人たちに温かい心で接し、親切にする心情を育てる。(小学校低学年教材「はしのうえのおおかみ」B 思いやり・親切)
- つい悪口を言ってしまったり、嫌なことをしまったりしたときの対処の仕方を考える学習を通して、礼儀とはいつでも真心をもって接することが大切であることを理解し、自分も相手も気持ちよく過ごしていくための**判断力を高める**。(小学校中学年教材「かなちゃんへの手紙」B 礼儀)
- 周囲に流されて行動する私について多面的・多角的に考える学習を通して、他人の言動に左右されことなく自主的に善惡の判断をすることの大切さに気付き、誠実に行動してその結果に責任をもとうとする**態度を育てる**。(中学校教材「私たちの初詣」A 自主・自律・自由と責任)

# 令和7年度「彩の国の道徳『未来に生きる』」実践事例作成委員会

## 1 作成委員

◎ 深谷市立八基小学校	校 長	嘉藤 央
・ 草加市立瀬崎中学校	教 諭	長 奈美
・ 入間市立豊岡小学校	教 諭	岩原 綾香
・ 深谷市立豊里中学校	教 諭	末松 裕
・ 吉川市立栄小学校	教 諭	伊藤 さゆり
・ 南部教育事務所	指導主事	坂井 貴文
・ 西部教育事務所	指導主事	星野 嘉之
・ 北部教育事務所	指導主事	高橋 寿和
・ 東部教育事務所	指導主事	富山 めぐみ
・ 県立総合教育センター	指導主事兼所員	三浦 祐司

## 2 事務局

・ 市町村支援部義務教育指導課長	山川 喜葉
・ 市町村支援部義務教育指導課教育指導幹	矢口 岳人
・ 市町村支援部義務教育指導課主幹兼任主任指導主事	佐藤 太一
・ 市町村支援部義務教育指導課指導主事	秋元 政康
・ 市町村支援部義務教育指導課指導主事	土井 鉄平

## 3 参考資料

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月 文部科学省
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月 文部科学省
- ・「匠の技」～ここから始めよう！道徳授業（中学校）～

平成27年3月 埼玉県教育委員会

- ・はじめよう！！道徳科 平成30年3月 群馬県教育委員会
  - ・道徳サポートブック 令和2年3月 宮城県総合教育センター
  - ・道徳的価値の見方・考え方 著書 赤堀 博行 2021年4月8日
  - ・道徳教育 2025.4 No.82 スタートダッシュ大成功！
- 道徳授業開きアイディア 150 明治図書
- ・道徳板書スタンダード＆アドバンス 有村浩司 著 明治図書
  - ・人権教育実践資料 性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅱ 倉敷市教育委員会
  - ・男らしく、女らしくがいいの？ NHK for School

「彩の国の道徳『未来に生きる』」実践事例【2】 令和8年3月発行

発行 埼玉県教育委員会

編集 埼玉県教育委員会市町村支援部義務教育指導課

〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6748

E-mail a6750-03@pref.saitama.lg.jp



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」